

西諸県地域の普及活動

令和6年9月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 第2回経営研修を開催

4日、先月に引き続き、普及センターが作成した経営分析シートを使った経営研修を行いました。今回の経営研修では、生産者が将来目指す経営規模や売上・所得を描いた「私の経営目標」の達成に向け、5年間の経営収支を作成する演習をしました。また、将来どのような経営を目指したいかについて、雇用や農地の確保等の面から具体的に考え、各々の目標を発表しました。

2年間の研修カリキュラムを通して、経営について自ら考えることで、今後の経営改善の意識を持つことができたようです。



【普及センターのサポートにより将来の計画作成の演習に取り組む生産者達】

2) 9月期子牛郡品評会が開催

13日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年9月期子牛郡品評会が開催されました。

9月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た30頭の出品があり、審査の結果、優等賞に6頭、尙等賞に13頭、式等賞に11頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林秀峰高校出品の「くるみ」号(守浩桜-満天白清-勝平正)、2席は高原町のI氏出品の「たっぴってる」号(桃白鵬-耕富士-洋紀久)、3席は小林市野尻町のT氏出品の「あい542」号(羅旺45-耕富士-安福久)が受賞されました。

受賞牛は、発育良好で体積豊か、幅、ハリに優れている点が評価されていました。



【優等賞首席 くるみ号】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

3) 9月普通期水稻成熟期調査の実施

12、17日に、西諸管内の成熟期調査を実施しました。稈長は平年よりやや低く、穂長は平年並みでした。しかし、穂数が平年よりやや少なく、1穂粒数も平年より少ないため、収量は平年よりやや少ないと見込んでいます。病害虫の発生は、一部ほ場でいもち病や紋枯病の被害が散見されました。

また、9月下旬～10月上旬にかけて試験ほ場の坪刈りを行い、かけ干し乾燥後に技術員会で収量調査を行う予定です。



【穂数を数える技術員達】

4) 焼耐用二条大麦の播種前検討会を実施

26日に、えびの市役所において、焼耐用二条大麦の播種前検討会を実施しました。

普及センターから令和6年産大麦の栽培実績を説明し、令和7年産大麦の栽培計画について検討しました。今年度は3～4月に降水が多く、赤カビ病の多発が懸念されていましたが、大麦生産者の適期防除の実施により赤カビ病はほとんど発生しませんでした。令和7年産は、さらなる安定収量・品質確保のために11月頃より巡回支援を行う予定です。

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

11日に、小林市の露地野菜での就農希望者及び高原町のマンゴーでの就農希望者への相談対応しました。

今後とも、関係機関と連携し、就農計画の作成、認定新規就農者の認定、各種支援策の活用等の支援を進めていく予定です。

※就農相談対応 2名2回

(内訳 小林市：露地野菜1名、高原町：マンゴー1名)

2) 新規就農者育成総合対策経営開始資金(旧：農業次世代人材投資資金)活用者の就農状況等の確認

13日に、小林市で経営開始資金等を受給している新規就農者に対して、就農状況の確認を行う面談が行われました。

面談では、前年度までの生産量や売上高の進捗の確認及び就農を行ったなかでの出てきた課題について個別に確認が行われました。

進捗が思わしくない就農者に対しては、関係機関と連携し、就農定着に向けたフォローアップ支援を進めていきます。

(内訳 小林市：施設野菜1名)

3) 農業者セミナーの開催

① 第6回アグリ★ベーシックセミナー

9日、第6回目のアグリ★ベーシックセミナーを開催しました。内容は「病虫害防除」についてで、県主催のリカレント研修会場と普及センターをオンラインで接続して行いました。8名の新規就農者等が参加し、新規就農者にとっては難易度が高いものも含まれていましたが、アンケート結果からは実践に役立つ研修であったという感想を多くいただきました。

② 第3回アグリ★ステップアップセミナー

6日に、担い手の経営スキルの向上を目指した研修会を開催しました。外部講師として坂本敬子税理士を招き、青色申告制度や農業税制に関する講義を受けました。開業する際に必要な書類や青色申告のメリット、農業経営基盤強化準備金制度等について分かりやすく説明がされ、生産者にとって、大いに学びになったようです。

来年度以降も、生産者の経営管理の意識向上を目指す研修会を計画していきます。



【セミナーを熱心に聞く受講者達】

③ 第2回アグリ★レベルアップセミナー

13日に、雇用型経営体が経営を発展していくため、従業員教育等の労務管理に関する研修会を開催しました。アグリビジネスパートナーの高津佐和宏氏を外部講師に招き、農家の右腕となる有能な従業員の育て方や、経営者と従業員の双方にとって風通しの良い職場を作るために意識すべきこと等について講義を受けました。生産者からは、「従業員への接し方の参考になり、今後に役立てたい」と前向きな意見がありました。

来月の18日には、管外の先進的経営者による、労働力確保や労働環境整備に関する事例、従業員とのコミュニケーションの取り方等に関するセミナーを開催予定です。



【グループワークに取り組む受講者達】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 特Aほ場巡回・新品種現地検討会を実施

19日に、えびの市の水稻生産者ほ場において、特Aほ場巡回指導並びに新品種(南海189号・南海192号)の現地検討を行いました。

特Aの応募予定田では、専技やJA指導員、生産者とともに、生産者の管理を確認するとともに、収穫時期の予想を行いました。

新品種(南海189号、南海192号)については、試験場の作物部から品種特性について説明を行い、生産者同士で活発な意見交換が行われました。

今後、収量調査を行い、収量や品質について既存品種と比較を行う予定です。



【収穫時期について検討する参加者達】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 西諸県地区 第5期畑かんマイスター研修会の実施

26日に、「KITTO 小林 交流スペース」(JR小林駅内)で、第5期畑かんマイスター研修会を開催し、畑かんマイスターや関係機関担当者17名が参加しました。

研修会では、管内の畑かん事業の状況、新たな営農推進の取組み及び畑かんの利用と将来に関する情報提供を行い、畑かんマイスターからは営農全般に関する意見が活発に出了ました。

今後も、畑かんマイスターや関係機関と連携し、地域の畑かん営農推進に向けた取組を行って参ります。



【普及センターからの情報提供】

2) サツマイモ基腐病の発生状況調査の実施

25日と30日に、JA担当者と連携して、管内の定点ほ場におけるサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。

今回の調査でも、全てのほ場でサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。

今後も、10月までの期間中に、関係機関と連携して調査を実施する計画です。



【サツマイモ基腐病発生状況の調査】

3) ほうれんそう栽培講習会の開催

2日に、加工用ほうれんそうの品質と収量向上のため、JAこばやし地区本部で講習会が開催されました(12名)。

普及センターからは、栽培暦に沿って、ほ場の準備(ほ場選定、排水対策)、は種から生育期の注意(高温、低温対策)、肥培管理(基肥、追肥、かん水)、病虫害(べと病)についてのポイントを説明しました。

その他、新サンフード、タキイ種苗、JA経済連も出席し、出荷にかかる注意点(異物混入、品種特性、肥料等資材の使い方)について説明がありました。

今年のは播日は、工場の稼働スケジュールに沿って、9月23日から始まることとなり、本格的なほうれんそう栽培が始まります。



【説明内容に聞き入る生産者員】

(適正な管理と飼料基盤に立脚した強い畜産経営体の育成)

1) 飼料用稲乾田直まき展示ほの坪刈り調査実施

26日に、えびの市岡元地区において、飼料用稲乾田直まき展示圃の坪刈り調査を実施しました。この展示ほは、硫黄山噴火による水質悪化について、水質改善の目処がたっていない中で、水稻から飼料作等への転換支援や対策についての検討を行うために設置しました。乾田直まきにあたり懸念されていた雑草防除を適切に行うことができ、乾物収量は約1.2t/10aと十分な収量を得ることができました。

今後は、飼料成分を調査し、硫黄山対策の1つとしてえびの市農技連畜産部会でさらなる検討を重ねていく予定です。



【展示ほでの収量調査】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご団地講習会(第4回)

4日、えびの市のいちご団地において、研修生2名と若手生産者2名を対象とした講習会が開催されました。普及センターからは、①今年の天候、②定植時の注意点、③天敵の効果的な活用方法について説明しました。

9月末から10月にかけていちごの定植が始まります。美味しいいちごを栽培できるよう、関係機関と連携して引き続き支援を行っていきます。



【普及員の説明を聞く生産者】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会の活動を支援

① 定期総会

12日、ゆ〜ぱるのじりでJAこばやしマンゴー部会定期総会が開催され、部会員とその家族の約40名と、関係機関約20名が参加しました。今年の販売状況については、昨年と比べ数量がやや減少しましたが、過去最高の単価を記録し、過去最高の販売額に近い数値となりました。また、普及センターからは産地ビジョンの更新案と認定研修機関となることについて提案し、承認を得ました。今後とも品質向上と産地維持・発展を目指して引き続き支援を行います。



【マンゴー部会定期総会】

② マンゴー部会三役会

6日に、JAこばやし三ヶ野山出張所でJAこばやしマンゴー部会三役会が、三役3名と関係機関3名が参加し開催しました。会議では総会資料の確認と、普及センターからは産地ビジョンの更新案、認定研修機関についての最終確認を行いました。今後も品質向上と産地維持・発展を目指して引き続き支援を行います。

③ マンゴー部会役員研修

19日に、アグリシードでJAこばやしマンゴー部会役員研修会が開催されました。部会役員約10名、関係機関3名が参加しました。部会では産地ビジョンを更新し、その中で樹の若返りを目標としています。そのため、今回の研修では、マンゴー苗の生産状況や各産地の状況を聞き取り、意見交換を行いました。生産者からは、苗の常時入手が難しいこと、新改植のやり方・コストが分からないことが課題としてあげられました。普及センターではまずは県内での事例収集やコスト計算等の支援を行ってまいります。



【苗について意見を交わす役員達】

2) 梨（あきづき）ジョイント仕立て栽培の果実調査

13日に、普及センターにて梨（あきづき）のジョイント仕立ての果実調査を行いました。

7～8月の降水量が少なく、果実が小玉傾向であるため、反収がやや減少しましたが、糖度や果形等については良好でした。今後は幸水の結果も合わせて、7年間の反収等の推移をまとめる予定です。



【梨ジョイント果実調査】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス巡回支援の実施

今月から、西諸県地域のラナンキュラス切り花生産者9名、球根生産者1名のほ場の巡回及び支援を随時行っています。先月の講習会では、冷蔵から定植までの技術説明をしたため、今月からは管理作業の実施状況の調査も含めて巡回しています。

10月上旬から、定植が順次開始されますので、特に、定植後の温度管理などに留意して活着を促進し、初期生育が良好となるよう支援していきます。

2) JAこばやし花卉部会の定期巡回及び定例会を支援

18日に、小林市管内において、生産者4名、関係機関4名が参加し、キク生産者4戸について9月彼岸出荷型のハウスを中心に巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。高温の影響で草丈が伸びず、開花が遅延し、彼岸過ぎてからの出荷もみられましたが、単価は概ね安定しています。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、9月彼岸出荷の状況や今後の市場の動向について説明されました。普及センターからは、薬剤の調整法や散布方法について説明を行いました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援していきます。



【会長の言葉を聞く生産者と関係機関】

3) 高原町花卉部会の研修と定例会が開催

26日に、鹿児島県枕崎市において、生産者5名及び関係機関3名が参加し、産地維持を図る2名の生産者ほ場の視察を行いました。

生産者数は減っているものの面積を維持し、産地の団地化とともに後継者へのスムーズな継承を行っている枕崎市の取組について説明いただきました。また、夏秋ギク「精の一世」を中心に視察し、枕崎市の生産者と高原町が生産者が活発に意見交換していました。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、9月彼岸出荷や今後の市場の状況について説明されました。普及センターからは、



【枕崎の生産者との意見交換】

視察先で実証していた遮熱資材や冬場の暖房機の準備について説明を行いました。

後継者への経営継承による若手の増加を図る枕崎市のキク産地とは現状が大きく異なる部分もありますが、今回の視察を通して、高原町が生産者が自分たちの状況にあった経営を頑張っていきたいと改めて考えられていました。

4) キイチゴ「ベビーハンズ」の視察研修を開催

27日に、宮崎市田野において、西諸県管内のキイチゴ生産者7名及び関係機関9名が参加し、キイチゴの現地視察研修を開催しました。

宮崎市田野の2ほ場を視察させていただき、中部農業改良普及センターの花き担当から中部管内の花き産地の概要の説明を受け、JA宮崎中央の指導員からキイチゴ研究会とほ場の説明をしていただきました。中部のキイチゴ研究会の役員の方も一緒に参加していただき、ローテーション定植や自家増殖苗による生育状況等について勉強しました。



【中部農業改良普及センターから説明を聞く生産者】

情報交換会も開催していただき、西諸県管内の生産者と中部管内の生産者の意見交換が深まりました。

今後も管内外の関係機関と連携し、交流による情報共有等の継続的な支援を行っていきます。

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 荒茶求評会の開催

27日に、普及センターで、管内茶生産者11名及び関係機関13名の参加のもと、茶の生産技術や加工技術の向上を目的とした荒茶求評会を開催しました。

会では、土壌診断や荒茶成分に関する研修と生産者から提出された荒茶サンプルの評価及び今後の改善点等について講評が行われました。

今後も引き続き、関係機関と連携して、茶の品質向上に向けた支援を行って参ります



【荒茶サンプルの評価】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) でこんの花研修会開催

5日、高原町で原木椎茸を生産している田中椎茸(なばちゃん家)において、女性農業者サポート協議会構成メンバーである「でこんの花」の研修会が行われました。11名の会員の方が参加され、田中椎茸のH氏を講師に原木椎茸の生産のこだわり、他業種の方との連携の取組、海外輸出、後継者への想い等について、5月に行われたサポート協議会の内容を現地でより詳しく説明する形で行われました。

同じ地域内の生産者同士であっても、田中椎茸の取組について全く知らなかった会員の方がほとんどで活発に質問があがるなど、生産物である原木椎茸や取組に対する関心の高さが伺われました。



【でこんの花現地研修会(講義、ほだ場)】

2) ドローンによるイタリアンライグラスの稲立毛間播種実演の実施

18日に、小林市のほ場においてドローンによるイタリアンライグラスの稲立毛間播種実演を行いました。生育調査や坪刈り調査を通して、省力化やコスト低減について小林・高原畜産部会飼料対策部会で検討を行う予定です。



【播種を確認する参加者達】

3) JAえびの市ピーマン部会栽培講習会

10日、JAえびの市本店において、JAえびの市ピーマン部会の栽培講習会が開催されました。普及センターからは、①今年の天候、②高温による赤果や落花の発生、③管内の天敵利用について紹介しました。特に今年は高温により、どのほ場においても赤果の発生が多く見られたことから、赤果になるメカニズムとその対策について詳しく説明を行いました。また、天敵利用については生産者からの反応も良かったことから、来作に向けて指導を行っていききたいと思います。

4) JAこばやしピーマン部会における「ひなたエアポット試験」

12日に、JAこばやしピーマン部会員のほ場において、ひなたエアポットを使ったピーマン苗の定植を行いました。このポットは、生分解性の網目状のもので、ポットのまま定植できることから省力化になります。また、定植直後の根の張りが良い点や株が小さい状態で植えるため定植直後のしおれが少ないなど様々なメリットがあります。

産地に普及できる資材か見極めるため、今後調査を行い、生育状況を確認していきます。



【ひなたエアポットでの定植】

5) 西諸県営農振興協議会野菜部会

①技術員会（第3回）

6日に、小林市内で西諸県営農振興協議会野菜部会の技術員会が開催されました。まず各品目担当から、高温によるヤケや生育不良、台風による倒伏や破損など産地の状況について情報共有があり、今後の高温や豪雨対策について意見交換を行いました。

その後、営振協展示ほの夏秋ピーマンにおける台木の比較試験とショウガのハスモンヨトウ対策試験を視察しました。

今年は高温や長雨など栽培が非常に難しい年となっています。引き続き、関係機関で情報共有を行い、生産者の所得向上に向け支援を行っていききたいと思います。

②雨よけピーマンの管外視察（大分県、川南町）

26日と27日の2日間、西諸県営農振興協議会野菜部会員6名で大分県豊後大野市の新規就農者研修施設と農林水産研究指導センターを視察し、その後川南町のトレーニングハウスに行き、営農指導員と意見交換を行いました。今回の視察で、他産地の担い手確保の体制や当地域では普及していないフラワーネットを使ったネット水平栽培など、様々な取組を勉強する良い機会となりました。



【ピーマン栽培の説明聞く指導員】

6) 第4回西諸県果樹技術員会

9日に、普及センターで第4回西諸県地区果樹技術員会が開催され、関係機関11名が参加しました。室内会議では、果樹カメムシ類の発生予察情報の共有や共進会の検討等を行いました。また、会議終了後は梨・ぶどうの食味調査を行い、今年の果実品質や生産状況の共有を行いました。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【果樹技術員会での食味調査】

7) キイチゴ「ベビーハンズ」輸送試験の実施

4日に、普及センターで荷造り前、6日に、試験場で輸送シミュレーション後について、専技、生産流通部、JAえびの市地区技術員と調査を行いました。



今回の試験の目的は、物流コストが高くなる一方であるため、物流コストを抑える資材の有用性について調査したものです。

現在使用している資材と比べても、新たな資材でのキイチゴの品質の差は見られず、日持ちへの影響もほとんどありませんでした。今後、経費も含めた結果についてまとめ、現場で利用できるか検討します。

【専技、生産流通部とJAえびの市とのキイチゴの品質調査】

今後も引き続き関係機関と連携し、経費と労力削減に取り組んでいきます。

8) 「苗鉢物で町を彩る推進会議」への支援

20日に、小林管内の鉢苗物生産者3名で構成される「苗鉢物で町を彩る推進会議」の打合せに参加しました。この団体は街を花で彩ることを目的に、毎年管内の事業所への花苗の展示や園児への花育等の活動を実施している団体です。

今年は、引き続き事業所への花苗の展示を行うとともに、園児への花育活動をより活発化させる方向となりました。

また、生産者、小林市と西諸県農林振興局とともに管内の花き生産者の所得向上を目的に、新たな取組についても検討しました。



【鉢苗物生産者との意見交換】

今後とも、生産者と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

9) 重陽の節句と敬老の日に合わせたキクのアレンジメント

9日に、西諸県地区花き振興会の取組として、西諸県地域で栽培されたキクのアレンジメントフラワーを、小林市の花屋に作っていただきました。

9月9日は「重陽の節句」、9月19日は「敬老の日」ということで、長寿を願ったキクを用いたアレンジメントは、各市町の最高齢者へ贈呈されました。その一環として、各市町、各 JA、NOSAI、振興局、普及センターにキクのアレンジメントが展示されています。

どれも、素敵なデザインのアレンジメントです。



【キクを用いたアレンジ】